

ていおう こっか もとい てんか おさ  
 帝王は国家を基として天下を治め

じんしん でんえん りょう せじょう たも しか  
 人臣は田園を領して世上を保つ、而

たほう ぞくきた そ くに しんびつ  
 るに他方の賊来って其の国を侵逼し

じ かいほんぎやく そ ち りやくりょう あに  
 自界叛逆して其の地を掠領せば豈

おどろ あにさわ くに  
 驚かざらんや豈騒がざらんや、国を

うしな いえ めっ いず ところ よ のが  
 失い家を滅せば何れの所にか世を遁

なんじすべから いっしん あんど おも ま  
 れん汝須く一身の安堵を思わば先ず

しひょう せいひつ いの もの  
 四表の静謐を禱らん者か

(御書 31 ページ)

### 通解

帝王は国家を基盤として天下を治め、  
 臣下の者は田園を領有して世の中を安心  
 して暮らせるようにするものである。し  
 かし、外敵がやって来てその国を侵略し、  
 内乱・反逆が起こってその地を支配下に置  
 くなら、どうして驚かないことがあるだろ  
 うか、どうして騒然としないことがあるだ  
 るうか。国家が滅亡してしまったら、世を  
 逃れるといっても、どこに行くことができ  
 るだろう。

自身の安心を考えるなら、あなたはまず  
 社会全体の静穏を祈るべきではないのか。

## 皆の幸せを祈れる自分に！

### よくわかる解説

本抄は、文応元年（1260年）7月16日、日蓮大聖  
 人が39歳の時に、鎌倉幕府の実質的な最高権力者・北条  
 時頼に提出されました。

当時は自然災害が相次ぎ、飢饉や疫病で大勢の人が亡く  
 なりました。大聖人は苦悩に沈む民衆を救うため、これらの  
 災難の原因が、誤った教えを信じて正法に背く謗法にあると  
 説かれたのです。

今回の範囲で大聖人は、もし争いが起こって、国家や自身  
 の生活環境が失われた場合、人は帰る場所が無くなってしま  
 うのだと指摘されています。そして、自分自身の安泰、一家  
 の幸福を願うのであれば、まず世界の平和、国の安穩を祈  
 るべきであると教えられています。

この大聖人の精神を正しく実践してきたのが、創価学会で  
 す。私たちは勤行の最後に「世界の平和と一切衆生の幸福」  
 を祈っています。自分だけの幸福もなければ、他人だけの不

幸もありません。

また、他人の幸せを祈ることは、自身の境涯を高めることに  
 もつながります。

皆さんの家族や、地域の学会員の方々は、池田先生と心を  
 合わせて、日々、縁する人たちに題目を送っています。それは  
 世界平和へとつながる偉大な戦いであり、自身の苦悩を解決  
 していく人間革命の挑戦なのです。

池田先生は、次のように述べられています。「自分の安らぎ  
 のみを願って、自己の世界にこもるのではなく、人びとの苦悩  
 を解決し、社会の繁栄と平和を築くことを祈って行ってこそ、  
 人間の道であり、真の宗教者といえます」

5月に入り、新しい環境にも慣れてきた頃でしょう。今、目  
 の前にいる友達の幸せを祈り、励まし合いながら、一緒に成  
 長していく。そこから、世界平和は始まります。

さあ、日々の祈りを根本に、友情の輪を大きく広げていきま  
 しょう！